

①第五中学校、第七中学校の統合及び新校舎の建設	
19年度～21年度	
(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第七中学校においては、欠学年が生じ、生徒数が極めて少なく(18年度当初で39名)、かつ今後も大きく増える見込みはない。 ・ 第五中学校は、校舎が築70年と老朽化が進んでおり、早期の建て替えが必要となっている。 ・ 第五中学校の敷地は計画道路(環状3号)によって分割されており、新校の建て替え地としては適切ではない。 ・ 第七中学校の敷地は、傾斜地に面しており、統合後の一定規模の学校を建てた場合には、グラウンド面積が十分確保できない上、傾斜地に起因する使用上の問題があり、新校の建て替え地としては適切ではない。
(方向性)	<p>第五中学校と第七中学校を統合する。統合による新校の校舎を新大塚公園と教育センターの敷地を活用して建設し、新校を開校する。</p>
(新しい学校のビジョン)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの教室でも自由にノート型パソコンを使用した授業ができるように校内LANを完備した学校とする。 ・ お茶の水女子大学などと連携して、理科・科学実験教室など質の高い教育プログラムを提供していく。 ・ 統合前に比べて広くなったグラウンドや体育施設を活用して、多様な部活動の実施を可能にする。 ・ 静謐で落ち着いた周囲の環境に馴染むよう、緑を十分に配した周囲に調和する施設とする。
(統合のスケジュール)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年4月統合に向けての準備会設置 21年4月 両校の統合及び新校の開校
(新校舎建設のスケジュール)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成19年度着工、20年度完成

②第六中学校、第八中学校、文林中学校の統合と新校舎への改築
平成21年度～23年度
(課題) <ul style="list-style-type: none"> 第六中学校は、校舎が築73年と老朽化が進んでおり、早期の建て替えが必要となっている。 第六中学校校舎は、民間高層住宅に隣接する不定形な土地に建ており、ここをグラウンドを含め中学校として一定規模を有する新校舎の建て替え地とするのは適切ではない。 第八中学校は、各学年とも単学級の小規模校であり、今後も大きな生徒増が見込める状況にない。
(方向性) 第六中学校、第八中学校、文林中学校の3校を統合し、第八中学校及びそれに接している汐見小学校の校舎の一部を改築改修し、統合後の新校を開校する。
(新しい学校のビジョン) <ul style="list-style-type: none"> グラウンドを含め敷地面積約13,000㎡を有する比較的規模の大きな学校として、多様な部活動が可能な学校とする。 近くにある東京大学と連携して質の高い教育プログラムを提供していく。 どの教室でも自由にノート型パソコンを使用した授業ができるように校内LANを完備した学校とする。 現在の汐見小学校の一部を子育て支援施設として整備し、地域に開かれた、低年齢児童を含めた多様な子育てサービスを提供することを検討する。
(統合のスケジュール) <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度 検討委員会設置、23年4月 三校の統合及び新校の開校
(新校舎建設のスケジュール) <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度設計、21年度着工、22年度完成

③第三中学校の中・高一貫(連携)校化
平成21年度
(課題) <ul style="list-style-type: none"> 第三中学校は、4クラス95名(平成18年度当初)の小規模校であり、単学級化の可能性を常にもっている。 第三中学校は、区内随一の敷地面積とグラウンド面積を有しており、この恵まれた教育条件をさらに活用する必要がある。

<p>(方向性)</p> <p>隣接する中央大学高等学校との連携を強化し、中・高一貫(連携)校化への取り組みを進める。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学、英語を中心に、習熟度別の選択授業を両校の教員の連携協力により実施し、より多様でかつレベルの高い授業を実施する。 ・ 第三中学校の一定数の生徒が、中央大学高等学校への進学できることを可能にする。 ・ 中央大学高等学校と部活動における交流や相互指導を実施し、より質の高いメニューの提供を可能にする。
<p>(連携強化のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20年度までに両校と教育委員会による検討委員会の設置 ・ 21年度内に実施

<p>④窪町小学校、大塚小学校の統合と第二校舎の設置</p>
<p>平成21年度</p>
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大塚小学校は、単学級の状態(18年度児童数 110人)が続いており、今後も児童数の大きな増加は見込めない状況にある。
<p>(方向性)</p> <p>窪町小学校と大塚小学校を統合し、現在の窪町小学校校舎に加え、現在の大塚小学校の校舎を第二校舎として新校を開設する。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後対策事業の充実を検討する。 ・ 高学年児童に対しては、教科担任制による授業を実施し、教育内容の充実を図る。 ・ 第二校舎を特定学年のための施設とするとともに、子育て支援を中心とした福祉施設を併設することを検討し、その教育内容の中に小さな子どもたち(乳幼児)との共生の観点を取り入れていく。
<p>(統合のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成19年度 検討委員会設置 ・ 21年度 両校の統合 <p>(第二校舎整備のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度内大塚小学校整備(子育て支援施設の整備を含む)

<p>⑤千駄木小学校、汐見小学校、駒本小学校の統合と新校舎への改築</p>
<p>平成21年度～25年度</p>

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 千駄木小学校は、20 クラス 714 名 (平成 18 年度当初) の児童を有する、比較的規模の大きな学校であり、かつ、通学区域内の学齢児童数も多いが、校舎は築 70 年と老朽化が進み、早期の改築が必要となっている。 汐見小学校は、7 クラス 210 名 (平成 18 年度当初) の比較的小規模の学校であり、単学級化の可能性を常にもっている。 駒本小学校は、6 クラス 161 名 (平成 18 年度当初) の単学級の小規模校であり、今後も児童数の大きな増加は見込めない状況にある。
<p>(方向性)</p> <p>千駄木小学校、汐見小学校及び駒本小学校を統合し、千駄木小学校を改築して、新校を開設する(併せて汐見小学校と駒本小学校の通学区域を見直す)。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の文林中学の敷地を含め 17, 000 m²を超える大きな敷地を生かして、グラウンドの拡大を含め良好な教育環境を整備する。 育成室の整備に加え放課後対策としての子育て支援事業の充実を検討する。 高学年児童に対しては、教科担任制による授業を実施し、教育内容の充実を図る。 心身障害学級の設置を含め、特別支援教育についての対応を検討する。 千駄木幼稚園との幼・小一貫(連携)教育の取り組みをいっそう強化する。
<p>(統合のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年度 検討委員会設置 ・ 21 年度 三校の統合 <p>(新校舎建設のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年度設計、23 年度着工、25 年度完成

<p>⑥教育・福祉一体施設の整備</p>
<p>平成22～23年度</p>
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実のため、教育と福祉のいっそうの連携を図る必要がある。 駒本小学校内に設置されている通級制の情緒障害学級「いずみ学級」を、今後の特別支援教育の展開の中でいっそう活用していく必要がある。 障害児やその家庭を支援するために、教育センターの実施する相談事業や子育て支援カウンセラー、スクールカウンセラー等の事業と、福祉センターの実施する療育相談事業をより強固に連携させていくことが求められている。

<p>(方向性)</p> <p>現在の駒本小学校内に、教育センター及び福祉センターの幼児・児童等の対応部門を一体的に整備するとともに、通級制の情緒障害学級である「いずみ学級」と連携し、障害児への支援を強化する。</p>
<p>(新しい施設のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通級学級としてのいずみ学級の機能に加え、教育センターの教育相談部門と福祉センターの療育相談部門、児童デイサービス事業を移転し、障害児に対して一体的に対応できる体制をソフト・ハードの両面から整備する。
<p>(スケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年度までに検討 21 年度以降整備し開設

<p>⑦昭和小学校、駕籠町小学校の統合と拡張施設の整備</p>
<p>平成22年度</p>
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 駕籠町小学校は、6クラス 147 名(18 年度当初)の単学級の小規模校であり、今後も大きな増加は見込めない状況にある。 昭和小学校は、比較的規模の大きな学校(18 年度児童数 632 名)であり、かつ学区内の学齢児童数も多い学校であるが、敷地面積が十分とは言いがたい。
<p>(方向性)</p> <p>昭和小学校と駕籠町小学校を統合するとともに、昭和小学校の拡張用地を確保した上で施設整備を行ない校舎の増設を行なう(併せて駕籠町小学校の通学区域を見直す)。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 育成室の学校内の設置に加え放課後対策としての子育て支援事業の充実を検討する。 高学年児童に対しては、教科担任制による授業を実施し、教育内容の充実を図る。 かごまち保育園を併設施設として移転し、かつ定員増を図る方向で検討する。
<p>(統合のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年度 検討委員会設置 23 年度 両校の統合 <p>(校舎増設のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 21～22 年度までに拡張用地の確保、整備(いずれも予定)

⑧誠之小学校の改築と第二校舎の整備
平成24年度～27年度
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誠之小学校校舎の主要部分は、築 82 年と著しく老朽化し、早期の建て替えが喫緊の課題となっている。 ・ 誠之小学校を、現在地で建て替えた場合、建築法令上既存不適格の建物であるため、新しい校舎は現在に比べ大幅に規模の小さな校舎となってしまう。
<p>(方向性)</p> <p>誠之小学校を改築するとともに、第六中学校のある敷地に第二校舎を整備する。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成室の設置に加え放課後対策としての子育て支援事業の充実を検討する。 ・ 高学年児童に対しては、教科担任制による授業を実施し、教育内容の充実を図る。 ・ 第一幼稚園との幼・小一貫(連携)教育の取り組みをいっそう強化する。
<p>(改築のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24～25 年度 第六中学校跡に第二校舎を整備 ・ 平成 26～27 年度 誠之小学校改築

⑨林町小学校、明化小学校の統合と第十中学校との小・中一貫(連携)校化及び新校舎への改築
平成28年度～30年度
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明化小学校の校舎は、築 76 年と老朽化し、建て替えが必要となっている。 ・ 第十中学校は、安定的な規模をもつ学校であるが、校舎及びグラウンドを含む敷地面積が区内中学校の中で最も狭小である。 ・ 林町小学校と第十中学校は近接しており、両校のいっそうの連携が求められている。
<p>(方向性)</p> <p>林町小学校と明化小学校を統合する。林町小学校及び第十中学校の敷地に小学校の新校舎を整備するとともに第十中学校を改築する。第十中学校との小・中一貫(連携)校化を進めるとともに、明化小学校の跡地を部活用グラウンドとして活用する。</p>

<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成室の設置に加え放課後対策としての子育て支援事業の充実を検討する。 ・ 高学年児童に対しては、教科担任制による授業を実施し、教育内容の充実を図る。 ・ 小・中一貫(連携)校化の強化とともに、明化幼稚園との連携も強め、幼・小・中の連携を図っていく。 ・ 部活用グラウンドを活用し、多様な部活動を展開していく。
<p>(統合のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度 検討委員会設置 ・ 28 年度 両校の統合 <p>(新校舎建設のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度設計、28 年度着工、30 年度完成

<p>⑩礪川小学校、柳町小学校、指ヶ谷小学校の統合と新校舎への改築</p>
<p>平成29年度～31年度</p>
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指ヶ谷小学校は、6クラス167名の単学級の小規模校(平成18年度当初)であり、今後も大きな増加は見込めない状況にある。 ・ 柳町小学校は、7クラス185名(平成18年度当初)の小規模校であり、今後も大きな増加は見込めない状況にある。 ・ 礪川小学校には、6クラス192名(平成18年度当初)の小規模校であり、今後も大きな増加は見込めない状況にある。 ・ 柳町小学校と礪川小学校には固定制の心身障害学級があり、特別支援教育への対応も含め、いっそうの充実が求められている。
<p>(方向性)</p> <p>礪川小学校、柳町小学校、指ヶ谷小学校を統合し、柳町小学校を改築して、統合後の新校を開校する。併せて特別支援教育(心身障害学級)の充実を図る。</p>
<p>(新しい学校のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいスタイルの特別支援学級を設置して、ソフト・ハードの両面から心身障害児(特別に支援を要する児童)への特別支援教育の充実を図る。 ・ 放課後対策を含む子育て支援事業の充実を検討する。 ・ 柳町幼稚園(こどもの森)との連携を強化する。
<p>(統合のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度 検討委員会設置 ・ 31 年度 三校の統合 <p>(新校舎建設のスケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度設計、29 年度着工、30 年度完成

